



とこう  
戸高だより



令和7年度第1号

令和7年4月7日

校長 岡本美加

令和7年度を迎えるにあたって 「学びあう」 ～ 戸高生 学びのDNA ～

昨年度、戸畑駅に掲示された本校のポスターを見たときに、私は「一生懸命がかっこいい」という言葉は戸畑高校らしいなと率直に感じました。学業に、学校行事に、部活動に、「一生懸命」取り組む「かっこいい」戸高生の印象は、しっかりと定着していると思います。

しかし、生きていく中で、一生懸命頑張れない時もあるし、一生懸命やっても結果が出ないこともあることは、皆さんも既に経験していることでしょう。「かっこ悪い」自分も受け止めて、次の一歩を踏み出す勇気を持つことがとても大切です。自分の気持ちを奮い立たせる原動力となるのは、志です。大きな目標、志があれば、失敗や挫折があっても、先を見通すことができ、乗り越えることができます。自分が目指すものは何か、どんな自分でありたいか、目指す姿を思い描いてください。自らの将来像を思い描くことができれば、おのずと、今やるべきことは何か、これから何をすべきかが見えてきます。

世の中の役に立とうと志を立てて困難に挑戦した、戸畑高校の先輩を二人紹介します。

3月にお亡くなりになった麻生渡 元福岡県知事は本校の10回生です。4期12年に渡って活躍され、皆さんご存じのイチゴ「あまおう」のブランド化に成功するなど県の産業振興に尽力された方です。全国知事会会長も務められ、21世紀の日本が伸びていくためには東京一極集中では持たないと考え、半導体やバイオなど次世代の産業集積に力を入れるなど、先見の明をもって、時代を牽引された方です。

また、日本人として初めて国際オリンピック委員会(IOC)会長選挙に立候補した、国際体操連盟の渡辺守成会長は、本校の30回生です。膨大な経費など肥大化する五輪の課題について、「ボトムアップの五輪」を目指すべきだと訴えました。会長選挙は落選となりましたが、「立候補したことで見える世界がたくさんあった。」と述べています。

これらの、課題解決に向けて、一生懸命に挑戦しようとする卒業生の姿勢には、戸畑高校での学びの土壌が育んできた、戸高生のDNAが脈々と受け継がれているのだと強く感じます。先輩たちのDNAをしっかりと受け継ぎながら、一人一人の希望の花を咲かせたいと考えています。

そのために、今年度は特に、スクール・ミッションの中の「他者と協働しながら挑戦し続ける力を育む」ことに焦点を当て、「学びあう」をキーワードに教育活動を進めていきます。戸高生同士で学びあうことはもちろんのこと、読書を通じて先哲の考え方を手掛かりにし、地域の方や、あるいは国境を越えて、己の考えを広げ深める「学びあう」場や機会を設けていきます。また、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする、学問につながる「深い学び」を目指していきます。

「学びあう」仲間であるために、自分の考えや意見を忌憚なく言い合える人間関係の土台を作り、対話により合意形成する力を身に付けられるよう心理的安全性を高める教育活動を推進します。失敗しても挑み続ける強くなやかな心を育てるために、それぞれの高い目標への挑戦を丁寧に支援していきます。

授業や学校行事、部活動などあらゆる場面で「学びあう」ことにより、戸畑高校での学びの土壌が育んできた戸高生のDNAを受け継ぎ、生涯にわたって学び続ける姿勢を身に付けていきます。そして、皆さん一人一人が、広く社会に貢献しようと志を立て、課題解決に挑戦する、一生懸命でかっこいい人となることを期待しています。

**SCHOOL MISSION** スクール・ミッション

「一生懸命がかっこいい」と努力する生徒一人一人が輝ける学校

各教科の学習や学校行事、部活動、生徒会活動等に主体的に取り組む中で、**他者と協働しながら挑戦し続ける力**を育むとともに、独自のキャリア教育プログラムにより課題解決能力を伸ばし、**予測困難な時代を心豊かにたくましく生き抜き、国際社会や地域の発展に貢献する高い志を持った人材を育成します。**